

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	予算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 第2委員会室
			担当職員 佐藤
日 時	令和5年3月14日（火曜日）	開 議	午前 10 時 20 分
		閉 議	午後 3 時 58 分
出席委員	◎木村、○法貴、林、片山、山木、小川、齊藤、（菱田議長）		
出席理事者	【産業観光部】由良部長 【商工観光課】三宅課長、谷主幹、橋本商工振興係長、松浦観光振興係長 【農林振興課】松本課長、中川副課長、佐藤担い手支援係長、 荒美食農ブランド係長、綾野林務・鳥獣対策係長 【農地整備課】澤田課長、中川副課長 【農業委員会事務局】吉田事務局長、小栗次長		
出席事務局	佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

10:20

1 開議

（木村分科会委員長あいさつ）

（事務局説明）

2 付託議案審査（説明～質疑、市長質疑項目の抽出検討）

〔産業観光部入室〕

・産業観光部長あいさつ【農林振興課・農地整備課・農業委員会】

（基本方針等）

産業観光部が所管する令和5年度当初予算の重点事項について御説明申し上げます。新型コロナウイルスによる地域経済への影響が長期間にわたり深刻化していたが、新型コロナウイルス感染症の位置づけが現在の2類相当から5類に移行される方針であることから、やや落ち着いてきたように感じる。しかし、今後も国や京都府による経済対策や支援政策などの情報収集に努め、きめ細やかな支援を実施できるよう、経済団体等と連携しながら取り組んでいきたい。産業観光部としては、所管するそれぞれの事務事業がウィズコロナ・アフターコロナを見据えて、地域経済の活性化とにぎわいの創出を目指し、今後は新規事業の展開、そして継続事業を充実させていきたいと考えている。商工関係では、市内に立地する事業所や商工業の活力を喚起し、新たなにぎわいを創出することを重要視している。地域経済の活性化を目的に、ウィズコロナ・アフターコロナに向けて、商店街等の支援を継続し、企業誘致推進のほか補助制度を活用した既存企業の支援などを実施する。また、産学公連携事業としてオープンイノベーションセンター・亀岡の整備・運用を支援し、「次代をリードする新産業を創出するまち」の推進を図る。さらに、3年目を迎えるサンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業においても、ベンチャー企業等を応援して投資を促し、イノベーションが活発なまちを目指して産業振興に取り組んでいく。観光関係では、国や京

都府、市観光協会、森の京都DMO等の関係機関と連携し、ウィズコロナ・アフターコロナに向けて、観光客の回復や交流人口の拡大に努め、にぎわいの創出により地域経済の活性化を図りたい。主な施策としては、トロッコ亀岡駅南側のにぎわいづくりと利便性向上のため、観光案内所の屋外移設などの整備を進め、市観光協会や森の京都DMOと連携・協力しながら、市内外の観光コンテンツのブラッシュアップやプロモーションに取り組んでいく。また、開設2年目を迎える川の駅・亀岡水辺公園のさらなる利用促進や、サンガスタジアム by KYOCERAを新たな観光資源として捉え、従来の三大観光とともに観光コンテンツのネットワーク化を図り、地域内の周遊性を高め、観光入込客の拡大に取り組みたいと考えている。農林関係では、国のみどりの食料システム戦略や農業政策に柔軟に対応すべく、令和4年度からスタートした第4次亀岡市元気農業プランに対応した農林振興と、活力ある農村地域の創造に向けた有機農業の推進・拡大により農産品のブランド力強化を図ることに加えて、国営緊急農地再編整備事業亀岡中部地区事業の着実な推進により、持続可能な農業を進めていきたい。主な施策としては、オーガニックビレッジ宣言に基づき有機農業推進協議会の事業実施を支援し、実施計画の円滑な執行や学校給食等公共調達への取組を推進していく。また、本市農業の経営安定を目指した京野菜などのブランド力強化により、担い手の育成や新規就農者への支援、環境保全と農村の多面的機能維持、都市と農村の交流などを促進したいと考えている。さらに、ふるさと納税の返礼品として人気がある亀岡牛のブランド化と安全で安定的な供給を支援するため、亀岡市食肉センターにおいてHACCPに対応した設備修繕を実施する予定である。以上が令和5年度当初予算の編成方針及び重点事項についての説明であるが、これまで常任委員会や決算特別委員会、事務事業評価において御指摘及び御意見をいただいた案件が9件ある。農業関係が6件、商工関係が3件あるので、商工関係については後ほど述べさせていただく。農業関係の1つ目、令和4年3月議会において、林業担い手育成事業経費について「これまで亀岡市森林組合に対し、適切に対応してこなかった責任は亀岡市にもあり、早急に亀岡市森林組合の組織改革、特に、雇用体制や状況をしっかり審査し、指導されたい。」との御指摘があった。これに対し亀岡市森林組合では府立林業大学卒業生1名を含めた2名の会計年度任用職員や、1名の正職員を雇用するなど、森林整備プランナー等の人材育成に努めているほか、現場においても作業員の操作技術の研さんに励み、担い手の資質向上に取り組まれた。同事業経費の来年度予算では林業機械導入支援事業を計上しており、林業の担い手育成に努めていきたいと考えている。次に、森林活用推進事業経費に対し「ハード面に関しての森林整備はもちろんのこと、森林に関する基本計画を立て直すとともにより強化し、バイオマスの活用について、近隣市町と連携すること。また、木材を使用した誕生祝品の製作は、亀岡産木材を使用されたい。」との御指摘があった。これに対し、令和3年度策定の森林意向調査実施計画に基づき計画的に森林環境整備を実施する予定で進めているほか、間伐等施業技術の向上や木質バイオマスの利活用策についても近隣市町と連携する中で調査・研究していきたい。また、木育誕生祝い品贈呈事業の木材についても、市内森林整備が進むと材木も多く流通することから、今後亀岡産木材へ移行できるように調整を続けていく。次に、令和4年9月議会において、農業担い手づくり育成事業経費について「食料自給率を上げ、耕作放棄地をなくすために、家族営農に対してもしっかりと支援すること。」との御指摘があった。家族経営の認定農業者に対する支援事業としては、生産用機械などの導入を支援する地域担い

手応援事業を令和3年度から創設し、令和3年度は11件、令和4年度は21件を採択した。要望調査で予算額を超過した場合は一律に減額調整を行うこととしているが、令和4年度は超過額が大きくなりすぎたため9月補正で増額対応した。令和5年度当初予算においても、例年と同額の1,000万円を計上しているが、今後の応募状況により適宜補正等の対応も考えていきたい。次に、畜産振興関係経費に対し「亀岡市土づくりセンターについては、臭気対策について早急に取り組むこと。」との御指摘があった。亀岡市土づくりセンターでは屋根採光改良工事や堆肥乾燥施設などの施設改良により、堆肥の品質向上や堆肥製造工程時の臭気対策等に努めている。特に公益財団法人亀岡市農業公社には、製造するさくら有機を有機農法や有機JASに対応する堆肥として登録し、市が進めるオーガニックビレッジに対応できる取組を求めている。また、家畜排せつ物等の地域資源を活用した、臭気を発生させないバイオマスプラントによる持続可能なエネルギー導入の可能性についても研究を行っていく。次に、林業担い手育成事業経費に対して「人材育成を図るためのプランナー等の担い手を確保すること。」との御指摘があった。先ほども述べたように、亀岡市森林組合において人材確保に取り組まれているほか、担い手の資質向上も支援していく。最後に、令和4年9月決算特別委員会事務事業評価において、森林活用推進事業経費に対し、「林務体制の強化及び予算の充実を図り、森林環境整備を促進されたい。さらに、早急にプランナー等の人材を育成するとともに、施業技術等の向上について他市町とより一層連携されたい。また、有害鳥獣対策も考慮した中で、森林整備計画をよりよい計画に見直されたい。」との御指摘があった。先ほども述べたように森林環境整備を計画的に進めていく予定であるほか、有害鳥獣対策においては、猟友会によるドローンでの捕獲・駆除活動にも取り組んでいる。獣害の解消は難しい問題であるが、近隣市町とも広域連携を図る中で、引き続き野生動物管理と被害防除を基本に有害鳥獣対策に取り組んでいく。以上がこれまでいただいた指摘要望事項等への回答、今後の進め方である。また、本日の審査の中でもこれらに関する事項や予算について、御説明させていただきたいと思うので、よろしく願います。この後、午前中は農林部門、午後からは商工観光部門について、各課長のほうからそれぞれ詳細について、説明させていただくので、慎重に御審議いただき、御賛同賜るようお願い申し上げます。

10:39

・第1号議案 令和5年度亀岡市一般会計予算（産業観光部所管分）

[説明]

・担当課長順次説明（6款農林水産業費・11款災害復旧費）

11:48

<休憩 11:48～13:00>

[質疑]

<片山委員>

第6款4目の担い手育成総合支援対策事業費の集落営農育成強化助成事業について、営農組織等への支援かと思うが、基礎支援分が令和4年度になくなり、今は成果に対する支援だけになっている。大きな額ではないが、組織にとって重要な財源

の一つであり、自主財源が不足しているという話も聞く。基礎支援分を復活することはできないのか。

<農林振興課長>

集落営農育成強化助成事業においては、これまで地域の農地面積や農家組合数により算定していた支援方法から、精力的に取り組まれている地域を優先的に支援するよう、令和4年度から見直しを行った。講習などへの参加や、研修会の開催、法人化や廃プラスチックの取組などそれぞれに単価を設定し、活動内容により支援している。

<片山委員>

営農組織においては様々な業務がある中で、事務的な手続き等にも手間がかかる。成果だけにとらわれず、実務に対する支援についても考慮すべきではないのか。

<農林振興課長>

見直しを行ったきっかけとして、何もせずに面積や農家組合数のみで支援されるのはおかしいという農業者からの意見があった。より積極的に活動いただいた農業者を支援するため、大きな見直しを行ったものである。

<齊藤委員>

農業総務費の亀岡市天川農業共同所除却費について、老朽化により除却することであるが、他の共同作業所でも老朽化した場合は除却いただけるのか。

<農林振興課長>

天川地区の共同作業所は約10年前に別の場所に新設されており、今回除却する倉庫は長年使われずに放置され、劣化していたものである。今後、他の作業所でも老朽化し危険な場合には除却を検討していきたいと考えている。

<齊藤委員>

有機農業推進事業経費の有機農業推進事業について、クラインガルデンのことかと思うが、どこで実施する予定なのか。

<農林振興課長>

有機農業推進事業は亀岡市有機農業推進協議会への補助金である。貸し農園としては、京都・亀岡保津川公園を拠点にして進めていきたい。また、秋頃には有機農業育成プログラムを開設したいと考えている。

<山木委員>

農業委員会費の農業者年金経費について、71人の農業者年金受給者を15人で支えているのか。

<農業委員会事務局長>

65歳以上で年金を受給されている方が71人であり、60歳未満で年金の掛金を支払っている加入者が15人いる。15人で71人を支えているものではない。

<山木委員>

委員会運営経費の主な経費に委員旅費が計上されているが、令和4年度は記載がなく今回から計上されているのはなぜか。

<農業委員会事務局長>

主な経費として資料に記載しているのは今回からであるが、委員旅費自体は以前から予算を確保しており、定例総会などに出席した委員の費用弁償の経費である。

<山木委員>

食農ブランド事業経費について、令和4年度はスープレシピの開発が記載されていたが今回はなくなっているのはなぜか。

<農林振興課長>

スープレシピの開発は国の補助金を受けて令和4年度に単年度で実施した事業である。

<山木委員>

農業担い手づくり育成事業経費について、農業次世代人材投資資金（経営開始型）と新規就農者育成総合対策経費（経営開始資金）は重複して受けることができるのか。

<農林振興課長>

どちらも国の制度であり、令和3年度以前は農業次世代人材投資資金（経営開始型）を実施していたが、現在は新規就農者育成総合対策経費（経営開始資金）に移行している。旧制度である農業次世代人材投資資金（経営開始型）も支給期間中のため、予算に計上している。

<片山委員>

農業経営基盤強化促進法が一部改正され、京力農場プランの実質化に向けて地域の将来像を落とし込んだ地図を作成することとなっている。そのための経費などは計上されていないのか。

<農林振興課長>

地域において話し合いを進める中で京力農場プランの実質化を目指すものだが、地域計画を作成し図面に落とし込んでいくことが必要になるため、農林振興課が主になり農業委員会とも連携して地域への指導など行っていきたい。経費としては現時点で計上していないが、今後国からの支援策などが発表された場合は補正予算で対応したい。

<片山委員>

地域営農担い手条件事業経費の地域担い手応援事業について、上限150万円で機械などの導入を支援するものかと思うが、京力農場プランの担い手であれば該当するのか。

<農林振興課長>

制度を創設した令和3年当初の要件としては、京力農場プランで担い手として位置づけられた方が前提となっていたが、京力農場プランが策定されていない地域もあるため令和4年から見直しを行い、認定農業者で一定の規模に達する事業者が該当することとなった。

<小川委員>

山木委員からも質問があった農業委員会の運営経費について、委員旅費は今回から主な経費に記載されているとのことであるが、令和4年度当初予算額と令和5年度当初予算額が異なっている。令和4年度も予算計上されていたのか。

<農業委員会事務局長>

今までから委員旅費は計上されており、令和4年度の予算額は219万円であった。

<小川委員>

委員会運営経費の令和4年度当初予算が約1,500万円で、今回要求が約1,700万円であるが、なぜ差があるのか。

<農業委員会事務局長>

令和5年7月19日に現委員の任期が満了するため、委員報酬が重複する月があることや、新任委員の研修や資料作成のための予算が増加している。

<木村委員長>

報酬が重複するというのはどういうことか。

<農業委員会事務局長>

7月19日に任期が満了し、新しい委員の任期が7月20日から始まるが、報酬は月割り計算で算出するため、7月の報酬が重複する。

<小川委員>

報酬が重複する以外で差額の要因は。

<農業委員会事務局長>

農業委員にタブレット端末を配付するための経費を令和4年12月議会に補正予算を計上しており、主な経費には含めていないが、令和5年度にはタブレット端末に位置情報などのソフトウェアを導入するための経費が増加している。

<小川委員>

ソフトウェアの導入ということで理解した。その金額であれば主な経費に含めるべきである。

<片山委員>

畜産振興関係経費について、亀岡牛が非常に人気であるため支援することは理解するが、一般質問でも要望したとおり、豚や酪農、鶏なども同様に厳しい状況があるため、支援するための予算を当初予算に計上してほしい。本日付の日本農業新聞にも掲載されていたが、発酵鶏糞などの有機肥料が好評であり、有機肥料を生産する畜産農家への支援は不可欠であると考えている。これは要望としておく。

<法貴副委員長>

鳥獣対策事業経費について、有害鳥獣駆除業務委託料はアライグマ・熊等の成獣501頭、幼獣41頭を見込んで積算していると説明があったが、その根拠は昨年度の実績なのか。

<農林振興課長>

過去の実績から算出している。最近ではイノシシが豚熱で死んでいることが多く、一方で鹿は増えすぎている。コロナの影響で山に入れなかった時期もあるため、数年間のデータから積算している。

<法貴副委員長>

シカ捕獲強化事業補助金について、予算が昨年より約140万円減額されているが、鳥獣被害が増える中で減額されたのはなぜか。

<農林振興課長>

当該事業は京都府から全額充当されるものであるが、京都府において単価の見直しが行われたため、令和5年度分から見直し後の単価により積算している。

<法貴副委員長>

猟友会に対する鹿捕獲の報酬は。

<農林振興課長>

成獣は2万円、幼獣は1万3,000円である。また、熊が3万円、カラスが1,000円である。

<法貴副委員長>

森林活用推進事業経費における新規事業の木育誕生祝い品贈呈事業について、祝い品の単価は幾らで、何人分を想定しているのか。

<農林振興課長>

祝い品の金額は一つ7,700円、560人の子どもを想定している。

<山木委員>

畜産振興関係経費について、肉フェスタの名称が変わり違うイベントとして開催されるとのことだが、肉フェスタは亀岡市の中でも人気のイベントであった。名称を変更する理由は。

<農林振興課長>

事務事業の見直しを行う中で、これまで開催してきた肉フェスタとアグリフェスタを統合して開催することとなった。肉フェスタがなくなるということではなく、亀岡市の農産加工品と亀岡ブランド牛の魅力を一緒に発信するものであり、効果的なPR方法を検討していきたい。

<片山委員>

農地中間管理事業推進経費について、機構集積協力金など大きな予算規模であるが、予算を投入することによる成果としてどのようなものを想定しているのか。

<農林振興課長>

地域内のまとまった農地の権利関係を集約して借り受け、再分配することで効率的な農業経営が行われるよう、取りまとめるための協力金を支援する事業である。担い手に向けても効率的に農地を提供するため、面的な集積を行っている。今回は曾我部町の寺地区や馬路町全域、河原林町全域などが希望されており、地域からの要望によって国費で支援するものであり、事業の財源は全額京都府の補助金である。

<小川委員>

林業担い手育成事業経費について、バックホウとウッドチップパーの導入に対して2分の1を補助されるとのことだが、機械の価格は幾らか。

<農林振興課長>

バックホウは700万円、ウッドチップパーは500万円の機械である。どちらも亀岡市森林組合が所有することになる。

<山木委員>

バックホウは通常のものか。ハーベスタなどではないのか。

<農林振興課長>

ハーベスタではない。林道の整備などに使用されるものであるが、今後必要になった際にはそういった機械も検討していきたい。

<小川委員>

森林活用推進事業経費について、森林資源解析等業務委託を新規で計画されているが、受託するためには高度な技術が必要であると思う。どこへ委託することを想定しているのか。

<農林振興課長>

京都府が立ち上げた京都森林サポートセンターに業務委託したいと考えている。対象の森林面積は1万3,000ヘクタールで、国土交通省の測量データを活用しながらレーザー解析などを実施する予定である。

<木村委員長>

立木本数や樹高の算出などを行うとのことであるが、解析を行うことによる今後の展開はどのようなものか。

<農林振興課長>

地形の解析を行い赤色立体図面の地図を作成することで、傾斜角から作業道の設置箇所などが分かるようになる。南丹市では独自に小型飛行機を飛ばして同じものを作成している。具体的な作業計画の策定や基礎資料として活用されるものである。

13:41

<休憩 13:41~13:50>

・産業観光部長あいさつ【商工観光課】

(基本方針等)

商工観光課所管の予算について説明する前に、指摘要望等いただいた案件について3点報告させていただく。まず令和4年3月議会において、商工業振興対策経費について「平和祭花火大会事業について、市民感情に寄り添った柔軟な対応や予算立てをされたい。また、産学官連携事業については、実行計画をしっかりと遂行し、産業建設常任委員会に進捗状況を報告されたい。」との御指摘があった。今回の花火大会では、市外からの観覧者をはじめ、多くの市民の皆様にも楽しんでいただき、そういったお声を多くいただいた。しかしながら、大会運営には安全対策などについて十分な調整、対応、対策が必要であり、そのための予算を今回計上している。花火大会は周辺の皆様方の協力があってこそ実施できるものであり、今後も多くの方に楽しんでいただけるよう努めていきたい。また、産学官連携については、本年、京都先端科学大学京都亀岡キャンパスに設置するオープンイノベーションセンター・亀岡や関連施設の建設を中心に整備を進めている。来年度も一部の整備を行うが、供用を開始し、地域産業の中核施設となるよう努めていきたい。次に、令和4年9月議会において、商工業振興対策経費について「サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業については、企業が定着し、雇用の促進が図られるように努めること。」との御指摘があった。同事業については、サンガスタジアム by KYOCERAを活用し、亀岡市で新たなイノベーションを起こすことを目指し実施している。新たな商品（事業）開発から、実用化における販路開拓など、事業化に向けて取り組んでいるところであり、市内で成長・発展ができるよう努めていきたい。同じく令和4年9月議会において、観光推進経費について「川の駅・亀岡水辺公園については、施設管理とにぎわいの創出のために、指定管理者としっかりと連携すること。」との御指摘があった。川の駅・亀岡水辺公園については、令和4年度から保津川遊船企業組合を指定管理者として供用を開始した。コロナ禍でスタートすることとなったが、当施設の管理や運営など毎月の月例報告会を通じて情報共有し、今後とも連携を図りながら運営していきたいと考えている。以上がこれまでいただいた指摘要望事項等への回答、今後の進め方である。

13:54

・第1号議案 令和5年度亀岡市一般会計予算（産業観光部所管分）

【説明】

・商工観光課長説明（5款労働費・7款商工費）

14:30

【質疑】

<山木委員>

サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業について、成果報告会にも参加したが事業内容が不明瞭である。詳細について説明願う。

<商工観光課長>

サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業は、令和3年度から3か年計画で取り組んでおり、サンガスタジアムを活用し産業振興を図るものである。サンガスタジアムはeスポーツやコワーキング施設などもある魅力的な拠点であり、5G環境が整備されているほか、ピッチを囲む24台のフィールドカメラも設置されている最新鋭のデジタル施設である。こういったスタジアムの特性と、亀岡市が掲げるリーディングシティ亀岡というビジョンを考える中で、新産業やイノベーションの創出を目的として国の地方創生推進交付金を活用し事業を開始した。スタジアムを活用した実証事業を行うベンチャー企業を全国から募集し、各事業者に上限150万円の補助金を交付しているほか、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社に伴走支援を委託している。すぐに効果が現れるものではないが、既に事業者間でのネットワークが生まれているほか、情報発信にも注力し、大学などでの講演や視察の依頼もあり、亀岡市のブランディングにも寄与していると考えている。長期的な視点ではオープンイノベーションセンター・亀岡の取組にもつなげていきたい。

<山木委員>

事業費約3,200万円の内訳は。

<商工観光課長>

上限150万円の補助金のほか、事務局業務をデロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社に委託する経費2,100万円などが含まれている。

<山木委員>

デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社への委託はプロポーザルなどの選定により決定されているのか。

<商工観光課長>

事務局業務委託のプロポーザルを行い選定した事業者である。

<山木委員>

ほかにも何社か候補の事業者があったのか。

<商工観光課長>

3社候補があった。

<山木委員>

どのように選定されたのか。

<商工観光課長>

外部の審査員も含めた選考委員会において選定した。

<林委員>

選定されなかった事業者はどこか。

<商工観光課長>

1社は日本総研、もう1社は現在資料がなく名称が不明である。

<山木委員>

一般的に何百万円の工事であっても土木事業者から何十社も入札があり企業努力もされている。3か年で5,000万円以上の事業で3社からしか選定しないのはなぜか。

<商工観光課長>

全国的に募集したところ、応募する事業者が3社であった。デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社とは以前からつながりがあったものではなく、この事業を通して初めて関わった事業者である。

<林委員>

亀岡市立病院においてコンサルティング業務などで関わりがあったのではなかったのか。

<産業観光部長>

商工観光課としては亀岡市立病院と同社との関係について認識していなかった。

<木村委員長>

3か年の事業が終了した後の展開はどのように考えているのか。

<商工観光課長>

1年目に6社の事業展開を支援し、2年目となる令和4年度は4社の支援を行っている。この事業は先行投資的な性質のものであるので、支援した事業者と継続的に関係を持ちながら、京都先端科学大学との連携も踏まえて亀岡市における新事業の創出を目指していきたい。

<木村委員長>

これだけの事業費を費やすからには、何かしらの成果を亀岡市に還元しなければならない。より具体的な展開としては何か考えているのか。

<商工観光課長>

実証実験を行ったドローンショーの市内イベントにおける展開や、顔認証システムを保育園などの送迎バスや学習塾への展開を想定している。現時点では課題もあるため、亀岡市としても支援を行っていきたい。

<木村委員長>

顔認証のシステムに関して、送迎バスなどへの置き去り防止としても活用できると思うので、そういった展開を期待している。

<山木委員>

ドローンショーを観覧し、子どもたちもドローンに夢を持っている。そういった期待を裏切らないよう、しっかりと実現してほしい。

<齊藤委員>

雇用対策経費について、企業における人材不足やスキルアップなど様々な課題がある中で、この事業費で十分なのか。

<商工観光課長>

主な経費のうち個別相談会については、求職活動に一步踏み出せない方を対象に、隔月でギャラリーかめおかにおいて個別相談会を開催している。1回の説明会には3～4人が参加され、中には本人ではなく親が参加するケースもある。職業情報コーナーは、市役所庁舎前スカイビルにあるハローワークの出張所内に設置されているものである。ハローワークの出張所は年間6,000～7,000人の方が利用され、市民の利便性を考慮する中で出張所の維持のため例年この予算を計上している。オンラインスキルアップ支援は令和2年度の途中から開始し、年間約30人の方が活用されている。個人がWEBライターや動画クリエイターなどのスキルを取得する際の費用を補助するものであり、多様な働き方を支援している。

<齊藤委員>

商工業振興対策経費の平和祭花火大会事業補助金について、なるべく経費を削減いただきたい。昨年の事件はJRの線路内に人が立ち入ったことにより起こったものであり、経費を増やすことは容易であるが、花火終了後にドローンショーや清掃を行うなど、費用がかからない方法で人流が集中しないよう対策を検討いただきたい。

<商工観光課長>

昨年の花火大会における混雑について、実行委員会において警備会社なども含め検

証を行った。その結果、JRの遅延だけが原因ではなく、亀岡駅北エリアの開発が進み人の動線が確保できないことや、何かあった際の情報発信がままならないことにも起因しているとのことであった。これまでは実行委員会や市職員がマンパワーで実施してきた手作りの花火大会であったが、現在の規模的には無理が生じており、琵琶湖花火大会でも3億円かかっていると聞いている。

<齊藤委員>

大規模な事業になると大企業が関わらないと対応できないと思っている。そうなる、しっかりと経費について見極めなければならない。サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業のデロイトトーマツも世界的な企業であり、社会課題の解決に取り組む力がある。その分報酬も高額になるため、市がしっかりと方針を示す必要がある。

<木村委員長>

平和祭花火大会事業補助金について、令和4年度予算から800万円増加していることについても説明いただきたい。

<商工観光課長>

安全対策のため警備員の増強や、動線上から花火が見えないような警備資機材の充実を行うものである。実行委員会においても観覧席を全席有料化し販売収入の増額を見込んでいるが、警備費用の増加分を支援するため、市からの補助金も800万円増額したものである。花火大会の開催に当たっては例年交通渋滞などが発生しているが、市外の方からのクレームはあるものの、市民の方からのクレームはほぼないような状況である。実行委員会としても多くの市民に楽しんでほしいという思いがあり、経費を増額しても開催に向けて進めていきたいと考えている。

<小川委員>

花火大会の経費については、去年の検証を行った上で次回開催へよい形でつなげていただきたい。サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業については、効果が見えていない。将来的には産学公連携も含めて企業誘致や雇用創出へつながると期待していた。今回計上された予算においてオープンイノベーションセンター・亀岡との連携も検討されているのか。

<商工観光課長>

現在はスタジアムのポテンシャルを活用した事業を行っているが、今年度からオープンイノベーションセンター・亀岡の整備が進んでいるので、将来的には産業の拠点としてそちらに移行していきたい。イノベーションをどこで行うか、場所の違いだけだと考えている。

<産業観光部長>

多様な事業者がこの事業に参加しているため、全体の内容が分かりにくいかもしれない。今年は大手企業である村田製作所も参加しており、今回をきっかけに亀岡市の産業と結びつけることができれば、また一つの成果となると考えている。参加事業者同士の連携にも期待しているほか、参加した事業者を産学公連携につなげることができれば、経済政策の一つの柱となるのではないかと考えている。

<法貴副委員長>

商工業振興対策経費の亀岡商工会議所事業補助金は新規事業なのか。

<商工観光課長>

新規事業ではない。

<法貴副委員長>

補助金の額はどのように決めているのか。

<商工観光課長>

補助金の額は双方が協議して決定しており、亀岡商工会議所において新商品開発や販路開拓の支援、さらに商店街等が実施するイベント事業などへの支援を行っている。

<法貴副委員長>

この予算どおり補助金の申請があり、交付しているという認識でよいか。

<商工観光課長>

お見込みのとおりである。

<法貴副委員長>

観光推進経費のロケ支援・誘致プロモーション事業補助経費について、フィルムコミッション事業として位置づけられる新規事業かと思うが、事業費200万円の内容として、国内外の映画や映像作品の制作支援、ロケーションの紹介、撮影許認可に関する情報提供、エキストラの手配協力などが資料に記載されている。この事業では映画の制作まで支援するのか。

<商工観光課長>

制作そのものを支援するのではなく、制作に関わる支援として撮影場所の提供や様々な事業者との調整など、間接的に支援するものである。

<法貴副委員長>

この事業はどのような手法で実施するのか。

<商工観光課長>

支援の方法については委託する予定であり、これまでは職員がロケ現場に同行して対応していたが、その負担が大きいため、令和5年度からは事業者に依頼し、必要に応じて対応いただこうと考えている。なお、今年度亀岡市内で行われたロケは約60件あり、ドラマから映画まで様々な作品が含まれている。

<法貴副委員長>

フィルムコミッションの成果として著名人もロケや撮影で亀岡を訪れているので、亀岡のPRになるよう、積極的な取組や情報発信をお願いしたい。

<齊藤委員>

フィルムコミッションではぜひ吉川町の厨子二階もよろしく願います。商工業振興対策経費の公共下水道助成金について、オープンイノベーションセンター・亀岡で推進するモビリティ・イノベーションの関連企業などが亀岡市に立地した場合かなり水が必要になると思うが、企業を誘致しても水の供給量は大丈夫なのか。

<商工観光課長>

水道の供給量についての詳細は不明だが、現在公共下水道の助成を行っている事業者はパナソニックデバイスコンポーネント株式会社と日清医療食品株式会社の2社のみである。助成金交付の要件である下水道使用量が年間3万立方メートルを超える事業者は多くないと考えている。

<木村委員長>

稗田野町に鶏卵のGPセンターが新設されると聞いている。およそ1ヘクタールの敷地でされるとのことであるが、上下水道の使用量については聞いているのか。

<産業観光部長>

農林振興課で対応しているが、かなり水道水を使うと聞いている。下水道使用量などは把握していないが、事業計画などを確認していきたい。

<山木委員>

観光推進経費の川の駅・亀岡水辺公園指定管理業務委託料について、令和4年度予

算から減額されているのはなぜか。

<商工観光課長>

川の駅・亀岡水辺公園については、今年度から保津川遊船企業組合に指定管理をお世話になっている。指定期間は4年間で、保津川遊船企業組合が当初事業計画を策定された際の事業費から今回の委託料を算出している。4年間で自走いただけるように収益化など努力いただいている。

<片山委員>

商工業振興対策経費の産学官連携事業補助金について、予算計画の2023年度収入に施設貸出しや講義料として3,600万円が計上されているが、その算定根拠を教えてほしい。その翌年度からも収入額の増加が見込まれているが、予定どおりに収入がない場合などはどうするのか。

<商工観光課主幹>

収入で見込んでいる金額は、そのままオープンイノベーションセンター・亀岡の研究開発費として使われる予定である。収入が得られなかった場合は研究開発費が削減されることとなり、亀岡市から追加で補助することはない。

<片山委員>

収入がなければ支出が減るということか。

<商工観光課主幹>

そのとおりである。維持管理経費や教材費などは変わらないが、研究開発費が縮小することとなる。

<片山委員>

京都先端科学大学内に社会連携支援室が新たに発足されたとのことであるが、運営体制の中で支援室はどういった位置づけなのか。異なる棟で活動される予定だが、その活動方針などはこの支援室を中心として進められるのか。

<商工観光課主幹>

社会連携室支援室はオープンイノベーションセンター・亀岡の準備室というイメージである。

<片山委員>

資料に社会連携支援室が2022年4月に発足と記載されているが、既に発足しているものか。

<商工観光課主幹>

既に発足しており、現在は準備室として進められている。

<商工観光課長>

オープンイノベーションセンター・亀岡の設置に先立ち、今年度から準備室として社会連携支援室を設置されている。2023年4月からセンターが稼働する予定であり、そこには亀岡市の現役職員が配置されることに加えて、亀岡商工会議所や他の関係機関からも人材を出していただく調整を進めている。

<齊藤委員>

オープンイノベーションセンター・亀岡のスマートアグリハウスについて、再生可能エネルギーを用いた営農型ハウスとのことであるが、どのようなエネルギーを予定しているのか。

<商工観光課主幹>

太陽光発電を中心に考えているが、具体的な太陽光パネルの設置場所等については来年度に設計を行う予定である。

<齊藤委員>

食品開発センターは、元はビールの発酵関連の建物を活用されているかと思うが、補助金で建築されたもののあまり活用されていなかったように思う。オープンイノベーションセンター・亀岡についても同様の事態にならないよう活用いただきたいが、所見は。

<商工観光課主幹>

亀岡市の職員もオープンイノベーションセンター・亀岡に配置されて業務を行う予定であり、多くの企業に活用いただけるよう取り組んでいきたい。

<木村委員長>

観光推進経費に関連して、亀岡光秀まつり事業補助経費が昨年の200万円から330万円に増額しているが、その根拠は。

<商工観光課観光振興係長>

今年は光秀まつりが第50回記念大会となり、記念事業として多くの取組を計画している。また、光秀まつり当日の5月3日にはサンガスタジアムで川崎フロンターレとのサッカー試合が開催されることが急遽決定したところである。昨年のサンガスタジアムでの川崎フロンターレ戦には年間最高の1万7,000人の観客が訪れ、今年はゴールデンウィーク中ということもあり、さらに多くの観客が訪れる可能性がある。交通整理や行事の時間などについては、現在警察と調整中である。

<木村委員長>

トロッコ亀岡駅ゲートウェイ化推進事業として約1,100万円の予算を計上されているが、事業の詳細について説明願う。

<商工観光課観光振興係長>

トロッコ亀岡駅は多くの集客がある施設であるが、市街化調整区域ということもあり観光地らしくないという意見が多かった。将来的には面的整備を行いたいと考えており、観光ビジョンを策定しトロッコ亀岡駅周辺を観光拠点として位置づけることで開発に関する整理を進めているが、課題も多くすぐに対応することが難しい。今できることとして、駅舎2階にある観光案内所を駅の南側に移設し、あわせてトイレなども整備することで、キッチンカーなどによるにぎわい創出を計画している。

<山木委員>

トロッコ亀岡駅南側の市街化調整区域に建屋が建っていたのではなかったか。

<商工観光課観光振興係長>

仮設のものしか建てられない区域であるにもかかわらず建築されていた建屋については、現在是正されている状況である。

15:29

[市長質疑項目の抽出検討]

<木村委員長>

これから市長質疑項目の抽出検討を行う。ただいま担当部から説明を受けたが、市長質疑項目抽出に当たってはなお疑義があるもの、掘り下げ審査すべきもの、議案の賛否に影響するもの、また審査中に質疑を行ったものを基本として抽出する。それでは市長質疑項目として抽出すべき項目があれば、その項目が掲載されている資料のページ数及び論点を明確にして発言願う。意見はあるか。

<片山委員>

11ページ、商工業振興対策経費の産学官連携事業補助金の関係で、オープンイノ

バージョンセンター・亀岡の予算計画において収入が予算見込みよりも少なかった場合にどのように支出を削減するか理解できなかった。研究開発費を縮小することであったが、研究開発費という支出項目は資料に記載されていない。

<木村委員長>

2023年度は亀岡市からの補助金1億2,000万円と収入3,600万円を含めてこの予算計画であるが、その収入が減った場合にも亀岡市からの補助金は変わらず全体的に事業を縮小されるという認識でよいか。

<商工観光課主幹>

お見込みのとおり、収入が減少し事業が縮小した場合でも亀岡市からの補助金額は変わらない。また、5年目以降の補助はない。

<齊藤委員>

同じく産学官連携事業補助金のオープンイノベーションセンター・亀岡について、4年間で4億円の補助金を投入するに当たり京都先端科学大学と連携して、しっかりと事業を進めていただきたい。市長質疑項目としては、どのように運営していくのかについて具体的かつ明確な展望を聞きたい。

<木村委員長>

最終的にどういったものを目指しているのか、明確なビジョンを聞けるとよいと思う。

<林委員>

木村委員長の言うとおおり、同事業に関する亀岡市の展望を聞きたい。一般的な会社経営の観点から考えると、コンサルティング費用なども経費に含まれるものである。商工業振興対策経費全体としても具体的な展望を示していただきたい。

<片山委員>

運営体制とチェック体制をしっかりと構築すべきであると思う。事業の運営を審査する機関は設けられるのか確認したい。

<齊藤委員>

日本産業界の衰退の要因としてイノベーションが起きていないことがある。オープンイノベーションという名称を掲げるのであれば、しっかりと亀岡市の企業や人材が本気になって取り組めるような事業にしなければ予算が無駄になる。行く行くは亀岡の企業が発展し、従業員の給料が上がっていくようにしないといけない。そういったところにも成果を期待しており、そのためにきちんと具体的な仕組みづくりをしてほしいと考えている。

<木村委員長>

委員からの意見に対して、理事者から追加説明はあるか。

<産業観光部長>

産学公連携事業に関して具体的ではないという御指摘であったかと思う。同事業に関しては、亀岡市・亀岡商工会議所・京都先端科学大学の3者で協定を締結し、齊藤委員が言われたような亀岡市産業の課題解決に向けて連携して取り組むこととしている。これは新しい取組であり、京都先端科学大学に職員も派遣して事業を進める中で、実際に稼働しながら考えていかなければならない部分も大きい。現在のところはEV分野を中心に、アグリ分野なども含めてイノベーション創出のための施策を進めていきたいと考えている。

<木村委員長>

部長から追加説明もあったが、オープンイノベーションセンター・亀岡に関しては、市長からも答弁いただきたいため、市長質疑項目として選定したい。どのように運

営し、最終的な展望はどうかを聞きたいと考えている。

<山木委員>

サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業の取組もオープンイノベーションの一環として位置づけられると思う。なぜスタジアムでこういった取組が行われているのかなどについて併せて答弁いただけると、よりつじつまが合うのではないか。

<木村委員長>

それでは、オープンイノベーションという文脈で、産学公連携事業補助金のオープンイノベーションセンター・亀岡の中に、サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業の取組も含めた最終的な亀岡の展望について質疑を行いたいがいかが。

(全員了)

[産業観光部退室]

15:47

<木村委員長>

当分科会では、まちづくり推進部、上下水道部の審査もあるため、そこから抽出する可能性もある。今、提案された1点を一旦ピックアップしておいて、その後に、一定整理をさせていただきたいと思う。それでは、本日の日程はここまでとし、明日は午前10時から分科会を再開して、一般会計、特別会計、企業会計の審査を行うのでよろしく願います。これにて散会する。

～散会15:58